

## 実施内容

平成 24(2012)年度はトンボ類のルートセンサスは行わず、トンボ類幼虫（ヤゴ）、および抜け殻の予備的調査、ショウリョウバッタモドキ生息調査、ギンイチモンジセセリ越冬幼虫の生息調査など、単発の調査を実施した。

### 1. トンボ類幼虫（ヤゴ）調査 平成 24（2012）年 6 月 11 日実施

調査対象地は第一調節池内の水域で、トンボ類が生息域として利用していると思われる以下の 4 地点とした。

- 1 土取り穴
- 2 湧水側溝
- 3 とんぼ田んぼ
- 4 湿地

湧水側溝では前年度までのセンサス調査において、マユタテアカネやコノシメトンボなどの成虫が記録されているので、これらの種のヤゴを確認することによってその再生産（世代交代）が認められるかどうかを眼目とした。また、補助的に他の水生生物類も採集・記録した。

採集には、たも網、メッシュ網（水槽飼育などで使用されるもの）を用いた。

確認種は、表 1 の通りである。

トンボ類幼虫の確認種は 1 種にとどまった。湧水側溝でみられたオニヤンマは、湧水域の細流を好む種で、羽化まで 3 年以上の年月を幼虫として過ごす。今回は小型の個体からほぼ終齢に近い大きさの個体まで各ステージのサイズが混在していた。

### 2. トンボ類ヤゴ抜け殻予備調査 平成 24（2012）年 7 月 30 日実施

調査対象地はトンボ類ルートセンサス調査と同様の水域とした。ため池を始点とし、側溝沿いから土取り穴、どじょう池を経て湿地、田んぼを終点とした。

調査法は、水域周辺の植物についている羽化殻のみつけ取り法である。

側溝沿いではヤゴ抜け殻の確認はできなかった。逆にとんぼ田んぼにおいてはシオカラトンボの羽化殻を 60 個体分採集した。湿地ではシオカラトンボ羽化殻 1 点のみであった（表 3）。

### 3. ショウリョウバッタモドキ生息調査 平成 24（2012）年 9 月 10 日実施

ショウリョウバッタモドキについては、野川自然の里（自然再生地域）において、昨年まで連続して記録がある。その生息状況を把握するため、今回は『草刈り検証モニタリング』実施に伴い、植物班の調査と同時に行った。

前年度までの昆虫モニタリング時では、ショウリョウバッタモドキの記録は、C 区域としたとんぼ田んぼ・湿地など水域整備をした地域のみ記録であったが、今回は A 区域でも記録された（図 1）。

### 4. ギンイチモンジセセリ越冬幼虫生息調査 平成 25（2013）年 3 月 24 日実施

イネ科のススキ・オギといった高茎植物群落において幼虫越冬を行うとされるギンイチモンジセセリの生息状況を把握するため、越冬幼虫調査を行ったが、今回は確認まで至らなかった。

## 結果

### 1. および 2. トンボ類幼虫・ヤゴ抜け殻予備調査

トンボ類幼虫については、とんぼ田んぼ、湿地とも芳しい結果は得られなかった。しかし湧水側溝で確認できたオニヤンマについては、各ステージの齢がみられたことから、この環境が継続して産卵場所として利用されている可能性が示唆できる。

トンボ類ヤゴの抜け殻調査については、とんぼ田んぼのみに 1 種が集中する結果となった。このことから、とんぼ田んぼを利用しているシオカラトンボが有占的であることがわかった。一方湿地ではシオカラトンボの抜け殻 1 点のみであり、予想したよりも少なかった。これにはウシガエルによる捕食圧の影響も考えられるかもしれない、可能ならばウシガエルの実態調査も視野に入れたい。

アカネ属の羽化殻確認もなかった。

抜け殻自体が風雨などの影響によって損傷・落下し、回収できない個体も多くあると思われ、単発の調査のみでは不十分と思われた。

調査回数を増やし発生期間に週 1 回程度の調査を実施出来れば理想的だが、参加者個々の時間や労力から、現時点ではなかなか実行しにくく、これからの課題である。

また、今回は全域をカバーした調査を実施したが、次回以降モニタリングとして実施する場合、ポイントを決めて調査を行うことを検討したい。

### 3. ショウリョウバッタモドキ生息調査

前年度までに比べ、あきらかに分布域を拡大していると思われる。メリケンカルカヤ群落の拡大と軌を一にしている様相もみられ、植相の変化とその関係もポイントとしてさらにモニターしていきたい。

### 4. ギンイチモンジセセリ越冬幼虫生息調査

例年 4 月の育苗期に田んぼ周辺で発生する成虫が、近辺のオギ群落を越冬場所として利用していると思われるため、今回は生息環境を確認し、調査方法について検討するための予備的な調査とした。

## トピック

●2012 年夏、野川公園内においてハネナガイナゴを初記録した（高橋・未発表）。元来野川流域ではコバネイナゴのみが確認されていた。この地点に出現した経緯は不明である。小金井市内では学芸大学の教育実習園内の田んぼでのみ確認していた（高橋・未発表）。

●2013 年 4 月 15 日植物モニタリング実施時、溜池付近において、ホソミオツネトンボ♂を初確認した。周辺で繁殖しているかは不明。調査の数日前に強風が吹いており、他地域から遅ばれてきた可能性がある。

文責:高橋利行

2012年度昆虫モニタリング トンボ類幼虫(ヤゴ)調査 2012年6月11日

- 対象地はトンポルートセンサス実施区内の水域とした
- ヤゴ(トンボ目昆虫の幼虫類)のほか、網で捕獲・確認できたその他の水生生物も記録した
- 調査方法 1.ヤゴ及びその他水生生物:網による掬い取り方、2.ヤゴ脱殻:水域に生育・立枯れしている抽水植物での目視確認
- 表中、トンボ類の●は成虫を、○は幼虫(ヤゴ)の確認を示す

表1 20120611/トンボ類幼虫(ヤゴ)

目	科	種名	土採り穴	湧水側溝	とんぼたんぼ	湿地	備考
蜻蛉(トンボ)	オニヤンマ	オニヤンマ		○			7mm~終齢まで各ステージ
	ヤンマ	ギンヤンマ				●♀産卵	
	トンボ	アキアカネ	●羽化個体				羽化個体
		3	1	1	0	1	

※ヤゴの抜け殻は確認出来なかった

表2 20120611/その他水生生物類

目	科	種名	土採り穴	湧水側溝	とんぼたんぼ	湿地	備考
イトミミズ	イトミミズ	イトミミズ			○		
ニナ	カワニナ	カワニナ		○			
カワゲラ	オナシカワゲラ	オナシカワゲラ属		○			
半翅(カメムシ)	ミズムシ	コムズムシ属	○		○		
		アメンボ	○幼虫・成虫				
		ヤスマツアメンボ		○幼虫・成虫			
		アメンボsp.			○幼虫・成虫		
鞘翅(コウチュウ)	—	小型ゲンゴロウ類	○				チビゲンゴロウ属?
	—	不明コウチュウ	○				小型ガムシ類?
双翅(ハエ)	ユスリカ	ユスリカ科(赤色)		○	○		
ダニ類	—	ミズダニ類の一種	○				
十脚(エビ)	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ		○		○	
	ヌマエビ	ミナミヌマエビ		○	○		
コイ	ドジョウ	ドジョウ		○			
スズキ	ハゼ	スミウキゴリ		○			
無尾(カエル)	アカガエル	ウシガエル			○幼生		
		16	5	8	6	1	

2012年度昆虫モニタリング ヤゴ抜け殻予備調査 2012年7月30日

- 対象地はトンポルートセンサス実施区内の水域とした
- 調査方法 ヤゴ脱殻:水域に生育・立枯れしている抽水植物での目視確認

表3 20120730/トンボ類 ヤゴ抜け殻

目	科	種名	土採り穴	湧水側溝	とんぼたんぼ	湿地	計	備考
蜻蛉(トンボ)	トンボ	アカネ属	0	0	0	0	0	
		シオカラトンボ	0	0	60	1	61	
		2	0	0	60	1	61	

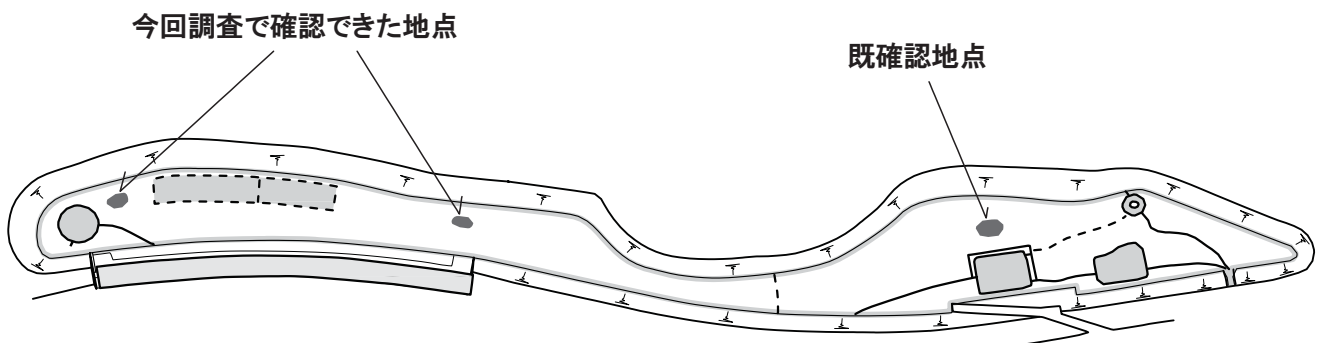


図1 ショウリョウバッタモドキ確認地点位置図